

学校運営協議会議事録

作成日 令和5年3月20日

作成者 岩澤 和弥

会議名:令和4年度 第3回小田原高等学校 学校運営協議会

日時:令和5年3月20日(水) 14:50～16:30 場所:第二会議室

時程・議題

(1)開会・校長挨拶(司会 副校長):14:50～15:00

【管理職、学校運営協議会委員】

(2)地域連携部会(司会 定・教頭 / 記録 才田教諭):15:00～15:20

【和田委員・中島正委員・副校長・全/定教頭・上杉総括・菊地原総括】

(3)学校評価部会(司会 全・教頭 / 記録 岩澤教諭):15:25～15:45

【石野委員・和田委員・中島正委員・(中島校長)・担当職員】

(4)学校運営協議会(司会 副校長 / 記録 岩澤教諭・才田教諭):15:50～16:30

【学校評議委員会委員、学校担当職員】

1. 石野会長より

2. 学校運営協議会各部会より

3. 令和4年度 学校評価 実施結果報告 について(各グループ)

全日制課程

[菊地原孝祐・総務グループ 総括教諭]

[片倉 保宏・教務グループ 総括教諭]

[由元 美保・研究開発グループ 総括教諭]

[高山 貴子・キャリアガイダンスグループ 総括教諭]

[二宮 賢一・生徒支援グループ 総括教諭]

定時制課程

[柴田 訓一・学習支援グループ 総括教諭]

[上杉 和弘・教育活動推進グループ総括教諭]

⑤ 質疑応答・委員からの意見聴取

5 その他

(5) 閉会 ※全日制 部活動視察(学校運営協議会委員+全日制教頭)

(2)地域連携部会

【令和4年度 地域連携活動について(全日制)】

[石野委員]

小田原の近現代についても、学びの場として取り入れてはどうか。

[和田委員]

地域貢献活動では、海岸清掃など話題性のある取組を検討してほしい。

【令和4年度 地域連携活動について(定時制)】

[和田委員]

県西部地域若者サポートステーションの取組として高校連携があるので、カフェのようなことの実施を検討してほしい。

[石野委員]

地域貢献デーについて、地域の方々とのふれあいを取り入れることで、生徒の自己肯定感を高めることができるのではないか。

(3)学校評価部会

①令和5年度合格者数(高山総括教諭)

- ・直近10年で最大の国公立大合格者数
- ・難関国公立大の現役合格者数も直近10年で最大
- ・私立大学も最大。慶応義塾・早稲田は直近10年で2番目の合格者数

《質疑》

[石野委員]

受験生の頑張り以外に実績をあげることのできた背景はあるか。

[高山総括教諭]

能力を伸ばすために、キャリア行事の目的を明確にしておこなった。

[和田委員]

小田原高校の成果をもう少しアピールしてほしい。受験一辺倒ではない、小田原高校の校風を堅持してほしい。

②みらいPASS(生徒学力調査)について(片倉総括教諭)

- ・純粋な達成度調査ではない。生徒の関心やキャリア形成に関する意欲、対人関係能力をはかるものである。
- ・進学について考えている生徒が多い反面、課題を抱えていると考えている生徒も多くいる。
- ・アダプタビリティで課題を抱えている生徒が多くいることが窺える。ひとりであるほうが落ち着くという生徒も多いようだ。自分に自信を持ちきれない生徒が多くいる。

③SSHについて(由元総括教諭)

- ・令和5年度よりSSH指定校になる。
- ・教室の配置など様々な点で変更がある。

《質疑》

[中島委員]

地域連携活動の小田原学について詳細を聴きたい。

[由元総括教諭]

市長や専門家などの講演会をもとに生徒がグループで地域の抱える課題について探求をおこなった。ポスターセッション型で全体に向けて発表。冬休みなどに生徒は取材にも出向いている。

④定時制の進路について(鈴木教頭)

- ・卒業による体験談を聞く機会をつくった。
- ・城北工業高校と合同でのキャリア教育をおこなっていく。

(4)学校運営協議会

①石野会長より

②各部会より報告

○全・総務G

体育館が耐震工事になり、式典(卒業式・入学式)などは三ノ丸ホールを借りて実施。

卒業式では呼名の際に卒業生の顔をみることができるよう、カメラを導入しスクリーンに投影を行った。

○全・教務G

今年度の1年次生より新しい学習指導要領になっている。探求や協働的な学習を重視する一方で、個に応じた学習を重視することとなった。一人一台端末などICT機器を活用し教育目標の実現に取り組んだ。65分授業の関係上時間割が3種類あり、職員・生徒の負担となっており改善に課題が残る。

○全・研究開発G

来年度からのSSHに備えて、教育課程の見直しが必要になる。生徒による授業評価も肯定的回答が多くなっている。HP更新では更なる広報活動のためにHP形態の刷新が必要となる。

○全・キャリアガイダンスG

キャリア行事を多く行うことで、進路や学習に向けた意欲を高めることができた。年次ごとの特徴を把握し、職員・生徒との間で共有した。結果としても現れているのでこの取り組みを継続したい。

○全・生徒支援G

体育館の改修で、小田原アリーナ・スポーツ会館など地域の方の協力を得て部活動を行うことができている。放送部は全国大会で賞を受賞。題材は足柄茶など地域に根差したものである。行事も徐々に復活し、来年度は保護者の方以外も参観できるような体制を整えていく。今年度の合唱コンクールでは保護者の方も多く参加していただき、期待度の高さを感じた。

○定・学習支援G

新教育課程に合わせてカリキュラムや教科研究を実施。既に在校している生徒の必修科目の再履修などの対応を行う必要がある。また、全日制を退学し、本校に入学した生徒もおり、対応が必要。ICTを用いた教育活動を重視し、学習課題が異なる生徒に対し成果をあげている。来年度以降も教科間で情報交換を行いながら積極的に使用したい。

○定・教育活動推進G

生徒一人ひとりの課題が異なり、苦慮するが生徒数が少ないという点を生かしてきめ細かい支援ができている。外部の機関とも連携をして多様な生徒とのかかわり方を行う。SSWも来年度より毎週来校。就職も地域の企業が多く、多くの支援を受けている。体育館改修工事中も城山中学校の体育館を使用させていただき、大変感謝している。

《質疑・意見》

[石野委員]

コロナの状況も見通しが立たない中で、生徒も多くの不安を抱えている。小田原高校の存在は地域にとって大切な存在である。その存在は地域の活性化・人材輩出のためになくしてはならない存在である。遠慮なく、地域・卒業生などに要望をしてほしい。

[和田委員]

進学状況をみて、生徒が更なる高みを目指していることがわかり安心をした。コミュニケーション能力の問題としてのスマートフォンの使い方など学習面以外の指導も必要だと考える。

[中島委員]

進学校を選択する生徒が部活動なども考慮して小田原高校を選ぶ。HPなどでのアピールが必要。